

日時: 令和4年 12月 22日(木) 午後2時から午後3時 15分

開催場所: 高槻市総合保健福祉センター3階 研修室

出席委員: 12名

岡村委員、稲田委員、島津委員、柏原委員、高須委員、金沢委員、川島委員、  
重根委員(東委員代理)、根尾委員、小西委員、松方委員、大辻委員(原山委員代理)

■議題1 第8次医療計画策定に向けた圏域の課題について

資料に基づき、高槻市保健所、茨木保健所から説明。

【資料1】都道府県・地域連携拠点医療機関(三島圏域一覧表)

【資料2】夜間・休日 精神科合併症支援システムについて

【資料3】高槻市保健所・茨木保健所 精神保健関連事業

【資料4】2022年度 第7次大阪府医療計画 PDCA 進捗管理票 三島二次医療圏

(意見等)

○概ね計画通りに進んでいるということが確認できたので、今後も計画に基づいた取組を進めて  
いただきたい。

■議題2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム実現における医療の課題検討について

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室地域保健課、高槻市保健所、茨木保健所から  
説明。

① 自殺未遂者相談支援事業

【資料5】令和元年度～令和3年度「自殺未遂者相談支援事業支援対象事案情報提供書」  
受理台帳年次集計(大阪府保健所・中核市)

【資料6】三島二次医療圏域における自殺未遂者相談支援事業実績

(質問)

○資料5において若年層、特に大学生の自殺が増えていることがわかる。新型コロナの影響も考  
えられるが、なぜこのような状況になっているのか。

(大阪府の回答)

○大阪府で、自殺対策計画の改定に向けて、府民に対する意識調査を行ったところ、新型コロナ  
の影響があったとの回答が若年層が多かったため、コロナが一因と考えられる。関係資料は  
大阪府の自殺対策審議会のホームページに掲載している。

### (意見等)

○診療の際、新型コロナに関して、オンライン等の手段で授業を継続してほしいという声や、合理的配慮を求める診断書を依頼される例が増えている。児童思春期の医療機関へ速やかに受診ができない例も出てきている。

○若い人たちが影響を受けているという話は同感である。大人になってくると、新型コロナは感染症だから終わりがあると、ある程度理解できるが、若い人たちはそこまでの人生経験がないのでしんどいと思う。ヤングケアラーであったり、虐待を経験していたりするケースもあり、そこに加えて新型コロナとなると何を目標にして生きて行けば良いか分からない。学生を診ていると、修学旅行や試合が中止になることでもしんどくなっているなど感じる。精神科医が早期に介入して日常生活が送れる環境に繋げていきたい。

### ② 大阪医科薬科大学病院救急部と精神神経科の連携について

【資料7】大阪医科薬科大学病院救急部と精神神経科の連携について

### (意見)

○毎週1～2人は自殺等のケースに限らず搬送されてくる。治療には多くの時間が必要であるが、例えば整形外科にかかる精神病患者を見ていると、身体の方が早く治ってしまう印象がある。身体の治療後、すぐに精神科へ後送されることもあり、精神科としてきちんと治療に向かっているのかと思うこともある。

○不安症の対応ができるとう物質関連障害の数も減ってくるのではないかと考える。

○説明でシステムティックに動いていくことが必要という言葉はすごく分かりやすい。患者を後送する先の病院についてはそれぞれの特徴があり、病院ごとの強みが分かれば良い連携が生まれ、システムティックに動くことが可能になるのではないかと。定期的に意見交換を行い、顔の見える場があっても良いと思う。

○連携先の病院の特徴も踏まえながら、今後もケースを繋いでいけたらと思う。

### (質問)

○自殺未遂者相談支援事業を終えた後のケースに関する再企図率について把握されているか。

### (高槻市保健所の回答)

○再企図率の正確な数値ではないが、計画を作成する際のデータとして自殺者における未遂歴の有無では21%の方に未遂歴があった。

**(茨木保健所の回答)**

○自殺未遂者相談支援事業における件数は少ないが、再企図をされる方は年間でおよそ1～2件である。

**(大阪府の回答)**

○再企図率の正確な数値は分からず、おそらく国においても把握していないが自殺既遂者の方が亡くなる場合において未遂歴があったかどうかの数値は国が把握している。亡くなった本人へは聞くことはできないため、周りにいる家族等が教えてくれたという場合になるので正確な数値ではないが毎年、既遂された4分の1が未遂歴のある方であったと見ている。

自殺未遂者相談支援事業で関わっていたケースで亡くなってしまふ方は0件ではないので、ケースの終結というところを大阪府でも把握している。支援中に本人から支援の拒否等があったケースは後を追うことはできないが、支援中にということであると毎年0件ではないが多い数値ではない。

**(意見)**

再企図率についてももう少し内容を見ることができたら支援について何か掴めるのではないかと  
思う。

**■議題3 その他**

その他の議題なし。